



## 充実した夏に

校長 佐々木 秀之

夏も本番、関東地方の梅雨明けはまだ発表されていませんが、最高気温が 30 度を超える真夏日となる日もあります。今年は新型コロナウイルスによる行動制限のない 4 年ぶりの暑い夏がやってきそうです。しかし、「夏の暑さ」は堪え難いものがあります。この高温多湿の夏をいかに乗り切るかに頭を悩ませていたことは、今も昔も変わりありません。

＊

ある調査によると、夏の風物詩と言えば 1 位「花火」、2 位「かき氷」、3 位「海」、以下「ラムネ」「夏祭り」「プール」「風鈴」「スイカ」……と続くそうです。

＜花火＞ 日本を代表する夏の風物詩です。今年は 4 年ぶりに各地で花火大会が開催されそうです。今でも続く隅田川の花火大会は、江戸川区花火大会とともに東京二大花火大会と称されています。隅田川花火大会は、江戸で疫病が流行し、多くの犠牲者が出た翌年（1733 年）に、慰霊と悪疫除災祈願を兼ねて、夏の川開きの日に打ち上げられたのが始まりだそうです。漆黒の夜空に繰り広げられる幻想的な光の世界に浸ると、蒸し暑さや日頃の悩みも吹き飛びます。また、線香花火の小さな輝きを見つめ、もの思いにふけてみるのも夏ならでは…。

＜かき氷＞ 夏季に催される祭礼や縁日などの代表的な縁日物です。日本では、かき氷を売っているお店の多くは氷旗（白地に赤い文字で「氷」と書かれた幟）を掲げています。日本以外にも類似のものが各国にあるようです。現在は専用の機械で氷を削りますが、古くは匏（かんな）などで粒状に削っていたようです。史実上の記録は平安時代に清少納言の「枕草子」に登場しています。しかし、製氷技術のなかった当時、夏に氷を食すにはあらかじめ冬の雪や氷を氷室で保存する以外に方法が無く、かき氷は特権階級しか口にできないものだったそうです。

＜海＞ 日本は四方八方を海に囲まれた島国で、日本人は古代より船で外交と行き来したり、物を運んだり、魚や貝などをとって食べる、塩を作るなど、大きな海の恵みを受けてきました。7 月の第 3 月曜日は「海の日」ですが、海に関する記念日を祝日にしたのは世界でも珍しいことだそうです。日本人、日本文化に四季は深い影響を与えてきました。四季があるからこそ、夏と言えば海を想像するのでしょうか。しかし、時には津波や台風による高波など、海から受ける災害のことを忘れてはなりません。

＊

先週から水泳指導が始まりました。体育で水泳指導があるのは、世界中でも珍しい国の一つです。「日本の夏」「伝統の夏」、どこかの CM ではありませんが、日常生活・学校生活の中で、十分に日本の四季を感じさせたいと考えています。一方で、酷暑とならないことを、ゲリラ豪雨や台風など自然災害がないことを願っています。